

花見蟹にひかれて

首藤 静夫

太宰治の『津軽』に花見蟹を紹介した一章がある。この蟹の正式名はトゲクリガニで毛ガニの亜種。甲羅にトゲがある。当地の花見の頃、陸奥湾で獲れるそうだ。

四月下旬、陸奥の花見がてらこれを食しに友人四人で出かけることにした。和食屋や寿司屋をネットで探し、電話で照会する。時節柄どの店もこの蟹で待ち構えていると思っていたが反応が鈍い。入荷は間際でないと分らない、この時期はホタテなので……と蟹に熱心ではないのだ。結局、宿泊する浅虫温泉のホテルと交渉、オス、メスを問わないから一人一杯と頼みこんだ。

『津軽』は名作だ。戦時中の作品で、いわば作者の故郷紹介編。太宰は、陸奥湾沿いの蟹田という町を訪ね、友人四、五人と近くの丘に登った。桜満開の中、この蟹の食べやすい部分だけを何杯もむしゃぶりつき、思い出を文学を語り合ったという。気持ち良く読める一冊だ。

ところで残る友人三人は「太宰」よりも食い気優先、こんな時期に蟹かよと疑わしくいう。言い出しっぺとしては一匹でもメスでも、とにかく格好をつけたい。メスなら用意できると電話をもらった時は嬉しかった。

こうして宿の食膳に小ぶりの蟹が並んだ。係の話では別料金で一杯千五百円という。無言のまま解体に着手。まだ無言。そのうちO君が、これ濃厚でうまいと漏らした。座が一気に明るくなった。

それにしてもこの二日間、湾に沿って車を走らせているが花見蟹の幟は見かけない。商売気のない土地柄だと車中で言い合う。外ヶ浜の蟹田漁港近くに車を停めた。近所のひなびたスーパー兼魚屋を覗くと、なんだあるじゃないか。二つの籠の中に件の蟹がうごめいている。蟹田、陸奥と籠の名札が違う。ふーん、蟹田は陸奥湾じゃないのかと店のオヤジをからかう。土地の言葉でおまけに早口、よく分らないが、どうも蟹田のは特別とっている。Y君がここで四杯も買い、湯がいて宅配をと頼んでいた。昨夜のみんなの「旨い」が嘘でなくてよかった。